

様式第3号

## 研修報告書（研修費）

平成30年11月12日

長久手市議会議長  
川合 保生 様

長久手市議会議員 川合 保生 ㊞

政務活動費を充てることのできる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年 月 日	平成30年10月10日（水）から 平成30年10月12日（金）までの3日間
研 修 先	第80回全国都市問題会議（長岡市）  （行程表は別表のとおり）
成 果	別 紙
経 費	金 76,110 円（政務活動費対象経費） 金 76,110 円（全体経費） （明細は別添のとおり）
提 出 資 料	○領収書の写し

※研修を実施した後は議長に1カ月以内に提出するものとする。ただし、1カ月以内が翌年度の4月20日を経過する場合は20日までとする。

# 第80回全国都市問題会議

## 行程表

### 10月10日(水)

12:58 ~ 13:25 13:55 ~ 15:33 15:40 ~ 17:00

藤が丘 ⇒ 名古屋駅 ⇒ 東京駅 ⇒ 新潟駅 ⇒ 新潟第一ホテル  
地下鉄 のぞみ22号 とき329号 徒歩

### 10月11日(木)

7:50 ~ 8:25 ~ 8:47

新潟第一ホテル ⇒ 新潟駅 ⇒ 長岡駅 ⇒ 長岡市シティホールプラザアオーレ長岡  
徒歩 とき310号 徒歩

19:50 ~ 20:12

長岡市シティホールアオーレ長岡 ⇒ 長岡駅 ⇒ 新潟駅 ⇒ 新潟第一ホテル  
徒歩 Max とき339号 徒歩

### 10月12日(金)

7:50 ~ 8:25 ~ 8:47

新潟第一ホテル ⇒ 新潟駅 ⇒ 長岡駅 ⇒ 長岡市シティホールアオーレ長岡  
徒歩 とき310号 徒歩

14:32 ~ 16:00 16:20 ~ 18:01 ~ 18:50

長岡市シティホールアオーレ長岡 ⇒ 長岡駅 ⇒ 東京駅 ⇒ 名古屋駅 ⇒ 藤が丘  
徒歩 Max とき324号 のぞみ239号 地下鉄

## 費用明細

地下鉄	藤が丘 ⇄ 名古屋	600 円
新幹線	名古屋→新潟、新潟⇄長岡、新潟→長岡、長岡→名古屋	47,510 円
参加費	第80回全国都市問題会議	10,000 円
宿泊費	新潟第一ホテル	18,000 円
	計	76,110 円

平成30年11月12日  
川合保生

## 第80回全国都市問題会議研修報告

会議日程について

1日目 平成30年10月12日(木)

- 9:30 開会式
- 9:50 基調講演 地方分権へのまなざし  
東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏
- 11:00 主報告 長岡市の市民協働  
新潟県長岡市長 磯田達伸氏
- 12:00 昼食 休憩
- 13:10 一般報告 市民との対話と連携で進める津市の公共マネジメント  
三重県津市長 前葉泰幸氏
- 14:40 一般報告 場所の時代  
建築家・東京大学教授 隈研吾氏
- アオーレ長岡の発注者として  
筑波大客員教授 森民夫氏
- アオーレ長岡での市民協働の実践  
アートディレクター 森本千絵氏
- 17:00 終了

基調講演にて本郷氏は歴史教育のとおり日本は古くから中央集権国家だったのかとの疑問を投げかけて、和同開珎を例に出し、それが貨幣経済にもちいられた事はないと否定された。日本における貨幣経済の始まりは鎌倉時代と考えるべきであると論じた。そして武士の勃興と地方の関係があり、16世紀の終わりになって信長、秀吉によって一つの国家が形成されたとみるべきであると主張された。そして黒船によって、明治維新が起こりそれで形成された中央集権国家が太平洋戦争まで結びついたと考えるのか、それは何故なのか、また現代の黒船は何かと言えばそれは人口減少と思うが明治中央集権とは逆に、地方自治を強く推進し、地方から底上げしていくことが、これからの日本を支えていく。との主旨であった。今年の会議テーマ「市民協働による公共の拠点づくり」を踏まえた講演であったと感じた次第である。

次に、主報告として磯田長岡市長が長岡市の市民協働について講演された。長岡市は米百俵の故事で有名である。平成24年6月に市民協働条例を制定したが、その制定にあたり検討委員会での議論と、市内全域で30回のワークショップを開催し1000人余の市民が参加したとのことであった。そして市民協働の場として屋根付き広場「ナカドマ」を中心に配置し、アリーナ、市民交スペース、市役所、議会が一体となった「アオーレ長岡」を平成24年4月に長岡駅前にオープンさせた。議場が1階にある変わった造りであり見学したがどうかという物であると感じた次第である。今後の長岡市が地方の時代の先駆者として市民と共に発展することを期待するものである。

次に、前葉津市長の報告があり公共施設に対する考え方、市民との関係、これからの津市における公共施設のマネジメントについての話であった。

隈研吾氏の話は彼の理論コンクリート、鉄、ではなく木、レンガなど小さなエレメントで建築をとということ、そしていま国立競技場にそれが具現化されているというような話であった。アオーレ長岡も彼の作品であるが、私が見て感じたのはことさら木を強調するような無駄が多いという事であった。ざら板を不必要にぶら下げたつまらないデザインにしか見えないとおもったがそれは建築に素人の想いかもしれない。ととくに感じた次第である。

前市長森民夫氏に至っては自分が隈氏の先輩でありいかにこの施設を造るのに自分が関わったかの自慢話であり聞いていて不快感が湧いてきて困った。との感想である。

森本氏はそれなりの説明であった。

## 2日目

### パネルディスカッション

{テーマ}

市民協働による公共の拠点づくり

{コーディネーター}

明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授

牛山久仁彦氏

{パネリスト}

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事長

伊藤香織氏

長岡市国際交流センター「地球広場」センター長

羽賀友信氏

埼玉県和光市長

松本武洋氏

高知県須崎市長

楠瀬耕作氏

伊藤氏はシビックプライド「都市に対する市民の誇り」の説明と市民と都市との接点となるものやことを「コミュニケーションポイント」と呼んでいると言

う。市民協働による公共の拠点とコミュニケーションポイントとの考え方について語った。

そして奥山氏は子育て支援事業における公共の拠点として地域子育て支援拠点事業について横浜市を例に取り、語った。

羽賀氏は長岡の市民主体のまちづくりについて人口減少の問題から住民自治の必要性が重要視されるようになったが、アオーレ長岡のオープンにより市民の活動が通年可能になり、市民協働がより推進されたとのことであり、今後とも人材育成のため施設を造って行くとのことであった。

松本氏は和光市の紹介から始まり、市民協働の拠点づくりの事例を発表し、地域包括ケアの拠点づくりにおいては民間との協働を推進してきた。と語り市民との協働による拠点づくりは、単に従来からの施策の一角を担うだけでなく参加、協働による市民の地域への愛着を形成し、地域へのロイヤリティを高める重要な役割を担っている。と述べた。

楠瀬氏は須崎市の紹介をされた後人口減少のまちにおいて如何に持続可能なまちづくりのための施策についての話であったが、現在の我が市における参考にはならないのでこれまでで割愛する。

今回参加をしてみて、それぞれの自治体においていま迄のような行政運営が通用しなくなってきている、なにをやるにも市民と共に考え、行動していくという形になっていくような話であった。しかし、一自治体として我が市が今後アオーレ長岡のような合体施設を造るにあたって財政的に交付金もなしに自前でというようなことが出来るのか甚だ疑問に感じた次第である。不交付団体の自治体の在り方について学んでみたいと思った次第であった。